

東京交通新聞 2008年3月3日(月)

<三和交通・横浜>

介助タクにAED

三和交通(吉川永一社長、本社・横浜市)はきょう3日から突然の心停止の救命措置に役立つAED(自動体外式除細動器)を一部タクシーに搭載する。

公共施設などで備え付けが進んでいるが、営業車に積むケースは神奈川県タク業界では先がけとなる。

横浜営業所(港北区)に2台配置している2級ヘルパー資格取得ドライバー乗車の「介助タクシー」にセコムのリENTALサービスを利用して搭載、車体にはステッカーを張る = 写真。



吉川社長は「地域の皆さまの命を守る一助になれば。今後の対応は導入効果をみながら検討したい」と話しており、社会貢献をめざしてグループ内の横浜エリアから試行的に取り組む考え。

機器の性格上、「無線で呼ばれて利用してもらうものではない。介助するお客さまの容態が万が一急変したり、街中で営業中に突発事態に遭遇した場合の備えになる」と同社長。

横浜エリアの商業施設に同社は専用乗り場を設けており、タク待機中に活用する可能性も想定している。

導入にあたって横浜市消防局の普通救命講習を8人(乗務員、職員各4人)が修了、心臓停止に対する人工呼吸、AED使用方法などをマスターした。